

「副首都・大阪」連携プロジェクト
リサーチ・プレゼンテーション
成果発表会資料

近畿大学 藤田研究室 Aチーム

うめきたエリアを
真の大阪の顔にするためには
—うめきた2期を減災の観点から評価する

近畿大学 藤田研究室 Aチーム
松岡稜馬・内田裕貴・佐々木大河・
浅井謙斗・高岡祥吾・七邊公之助

メンバー紹介

- 名前
- 最も興味のある社会問題



松岡稜馬

排気ガス



内田ゆうき

CO2増加



佐々木たいが

長時間労働



浅井謙斗

海洋汚染



高岡しょうご

年金



七邊公之助

食品ロス

本日の報告内容

I. 研究の背景と目的

II. 研究の方法

III. 中間発表会のコメントから

1. 水害を選んだ理由

2. なぜ減災について考えるのか

IV. うめきた2期・梅田周辺（大阪市北区）を中心にした災害予想
の可視化

V. 今後の課題とそれに対する提案

VI. 参考文献

研究の背景及び目的

- 副首都ビジョン【改定版】より「世界標準の都市機能の充実」に着目
- 「うめきたエリア」を研究対象として、うめきたエリアを「真の大阪の顔」とするためにどうすればよいのか、環境とまちづくりの分野から研究をすすめることとした
- これまでにうめきたエリアのうち、特に「うめきた2期」事業について研究をすすめるなかで、UR都市機構様への聞き取り調査とフィールド調査から、現状を把握し、課題を抽出した
- その上で本研究の目的として、水害への備えについて、防災ではなく減災の観点から、うめきたエリアについて分析と評価を試みることにした
- 中間発表会のコメントをうけて、うめきたエリア・梅田周辺（大阪市北区）を中心にした災害予測の可視化をおこない、今後の課題とそれに対する提案をおこなう

研究の方法

(中間発表会)

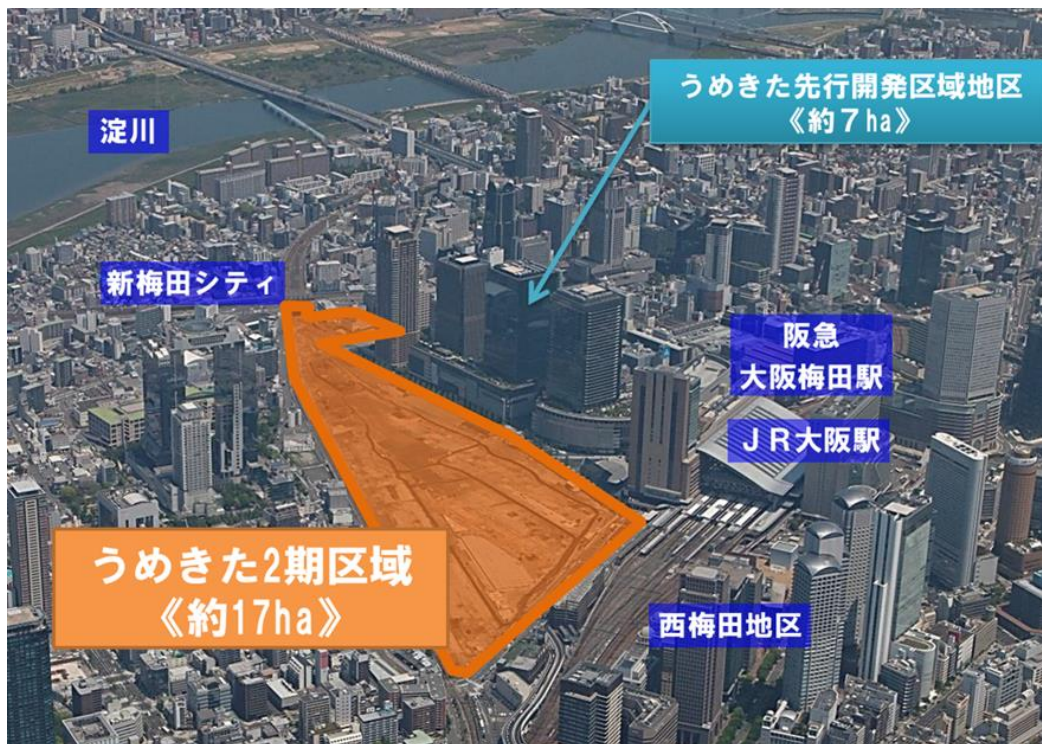
1. 文献調査(先行研究、行政資料)
2. 社会調査(聞き取り調査、フィールド調査)
3. まとめ

(成果報告会)

4. 中間発表会のコメントから
5. 梅田(大阪市北区)を中心にした災害予測の可視化
6. 今後の課題とそれに対する提案

中間発表会

うめきた（大阪駅北地区）プロジェクト



出典：大阪市，うめきた（大阪駅北地区）プロジェクト，
<https://www.city.osaka.lg.jp/osakatokei/page/0000005308.html>



出典：UR都市機構，うめきた2期地区，<https://www.ur-net.go.jp/produce/case/umekita/2nd/project2/approach.html>

- うめきた地区：旧梅田貨物駅にあたる約24haの区域
- 鉄道4社7駅が乗り入れ、1日約250万人が利用：西日本最大のターミナルエリア
- 大阪、関西の発展をけん引し、日本の国際競争力を強化する新たな拠点として期待
- 2002年からプロジェクトが始動

聞き取り調査

1. 日時：2023年9月29日（金）13:00-15:30
2. 場所：グランフロント大阪南館17階うめきた都市再生事務所
3. 対応：UR都市機構 うめきた都市再生事務所 事業計画課 2名
4. 内容：
 - ①うめきたプロジェクトについて
 - ②うめきた2期プロジェクトの詳細について
 - ③質疑ならびに意見交換



フィールド調査

1. 日時：2023年9月29日（金）
2. 場所：うめきた1期（グランフロント大阪）、梅田新駅
3. 同行：UR都市機構 うめきた都市再生事務所 事業計画課 1名
4. 内容：
 - ①うめきた1期（グランフロント大阪）
 - うめきた2期との接続部、ナレッジキャピタルほか
 - ②梅田新駅（うめきたエリア、新地下改札口周辺）
 - うめきた2期との接続部ほか

大阪の課題（うめきたエリア）

課題1：災害時の避難場所が十分になかった

現計画：都市公園（防災公園）で3万4千人の
一次避難場所

課題2：梅田駅前（ビルばかりで）他の大都市と
差別化されていない

うめきた2期を**減災**の観点から分析する

- うめきた2期：地震や津波、大規模災害時においても、ハード・ソフトの面でBCP（Business Continuity Plan）に対応できる機能を備え、周辺地域も支えながら速やかに機能を回復し、立ち直ることのできるレジリエントなまちを実現することを計画
- うめきた2期：大規模災害に対応したまちの実現に向けて自立型エネルギーインフラを導入
- しかし、うめきた2期は耐震・耐火への備えはあるが・・・

うめきた2期エリア：

- ・ 淀川の氾濫や南海トラフ地震による津波などの浸水リスクを内包
- ・ 水害による被害の可能性についての検討が必要

中間発表会のコメントから

水害を選んだ理由

建物倒壊による死亡者	約80,000人	24%
津波による死亡者	約230,000人	70%
その他の被害による死亡者	約20,000人	6%
死者亡数 合計	約330,000人	100%

出典：内閣府報道発表資料「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）」

- 水害（津波）による死亡者：70%を占めている
- 建物倒壊などについては都市部による被害が多いと考える

水害を選んだ理由2

都道府県	建物崩壊	津波	火災	合計
静岡県	約13,000人	約95,000人	約1,600人	約110,000人
和歌山県	約37,00人	約71,000人	約200人	約75,000人
高知県	約10,000人	約37,000人	約1,600人	約49,000人
三重県	約9,800人	約32,000人	約800人	約43,000人
宮崎県	約800人	約39,000人	-	約40,000人

都道府県	建物崩壊	津波	火災	合計
徳島県	約3,200人	約24,000人	-	約40,000人
愛知県	約15,000人	約6,400人	約200人	約27,000人
大分県	約20人	約15,000人	約1,700人	約23,000人
愛媛県	約7,400人	約2,800人	約400人	約11,000人
大阪府	約3,800人	約700人	約500人	約5,000人

出典：内閣府報道発表資料「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）」

- 水害（津波）での被害が1番大きい

なぜ私たちは減災について 考えるか

当たり前前の防災に+ α の減災でより安心を

なぜ私たちは減災について考えるか

(中間発表会のコメントを受けて)

- 減災とは災害が起きる前提で私たちを守るすべを考えること
- 災害はある日突然やってくるもの
- 起きないようにする防災の考え方が一般的に知られている中で起きてしまったから、私たちの身を守るためのアプローチを見出す、減災の考え方を利用者に普及させることで、うめきた2期エリアの利用者がより安心できる施設になると考えました

うめきた2期を**減災**の観点から

- うめきた2期は基本的な考え方として、地震や津波、大規模災害時においても、ハード・ソフトの面でBCPに対応できる機能を備え、周辺地域も支えながら速やかに機能を回復し、立ち直すことのできるレジリエントなまちを実現することを主としている
- うめきた2期では、大規模災害に対応したまちの実現に向けて自立型エネルギーインフラを導入している
- しかしながら、うめきた2期の該当するエリアは淀川の氾濫や南海トラフ地震による津波などのリスクを内包しており、災害による被害の可能性が無視できない状況である



うめきた2期を**減災**の観点から考える

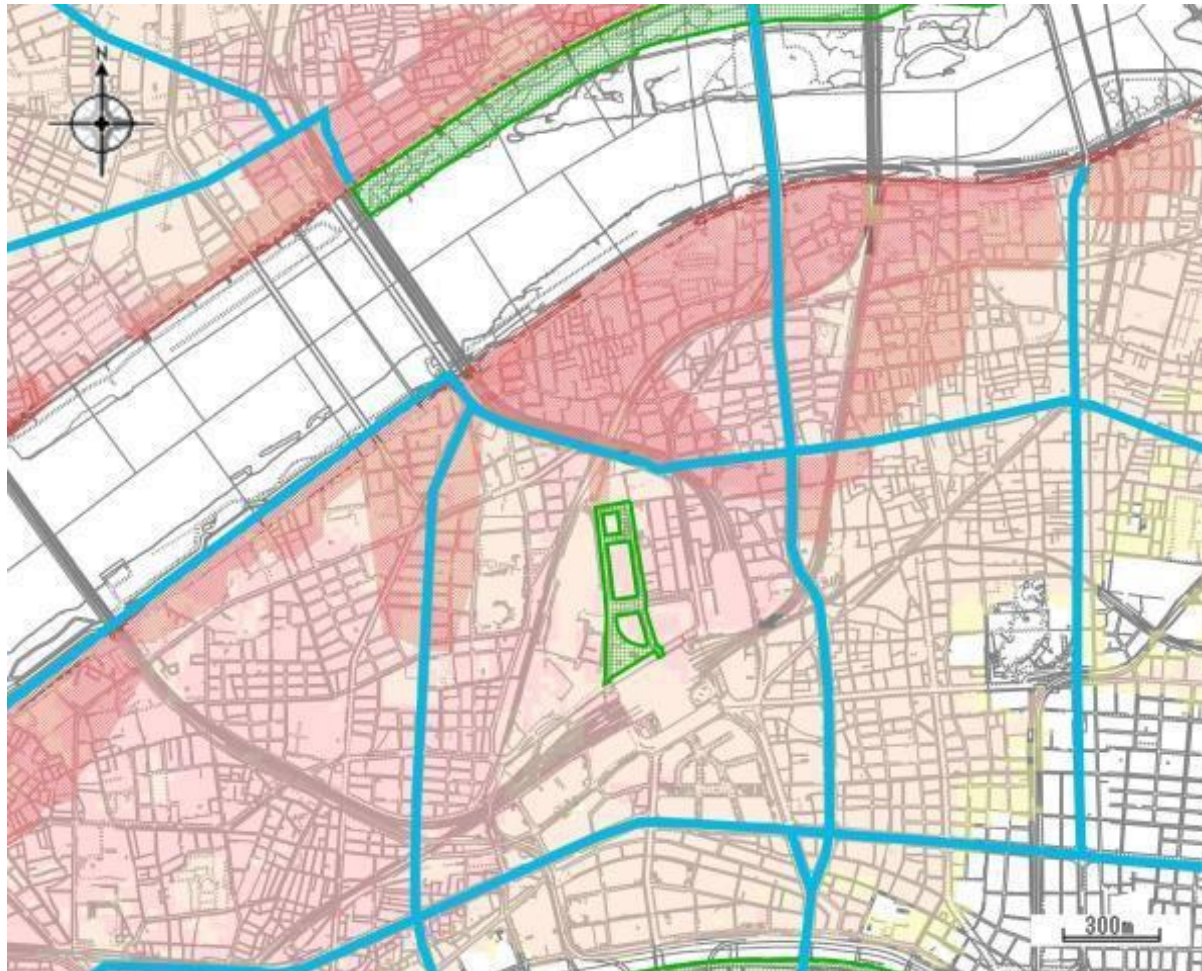
うめきた2期における今後の水害による災害予測

- うめきた2期が位置する大阪市北区梅田を中心に水害による災害リスクに関して考えると…
- そもそも大阪市北区は海拔0m地帯やそれに近いような低地が基本的に広がっているため、淀川の氾濫、内水氾濫、南海トラフ巨大地震における津波、浸水が想定されている
- 大阪府によれば、海に面した全域でおよそ3m～4mもの津波が到来することが予測されている
- 加えて、浸水しやすく水がなかなか引かないといった問題点がある



- うめきた2期エリアが位置する大阪市北区を中心とした水害による災害予測の実施
- 地図情報サイト”マップナビおおさか”を使用して可視化を行った

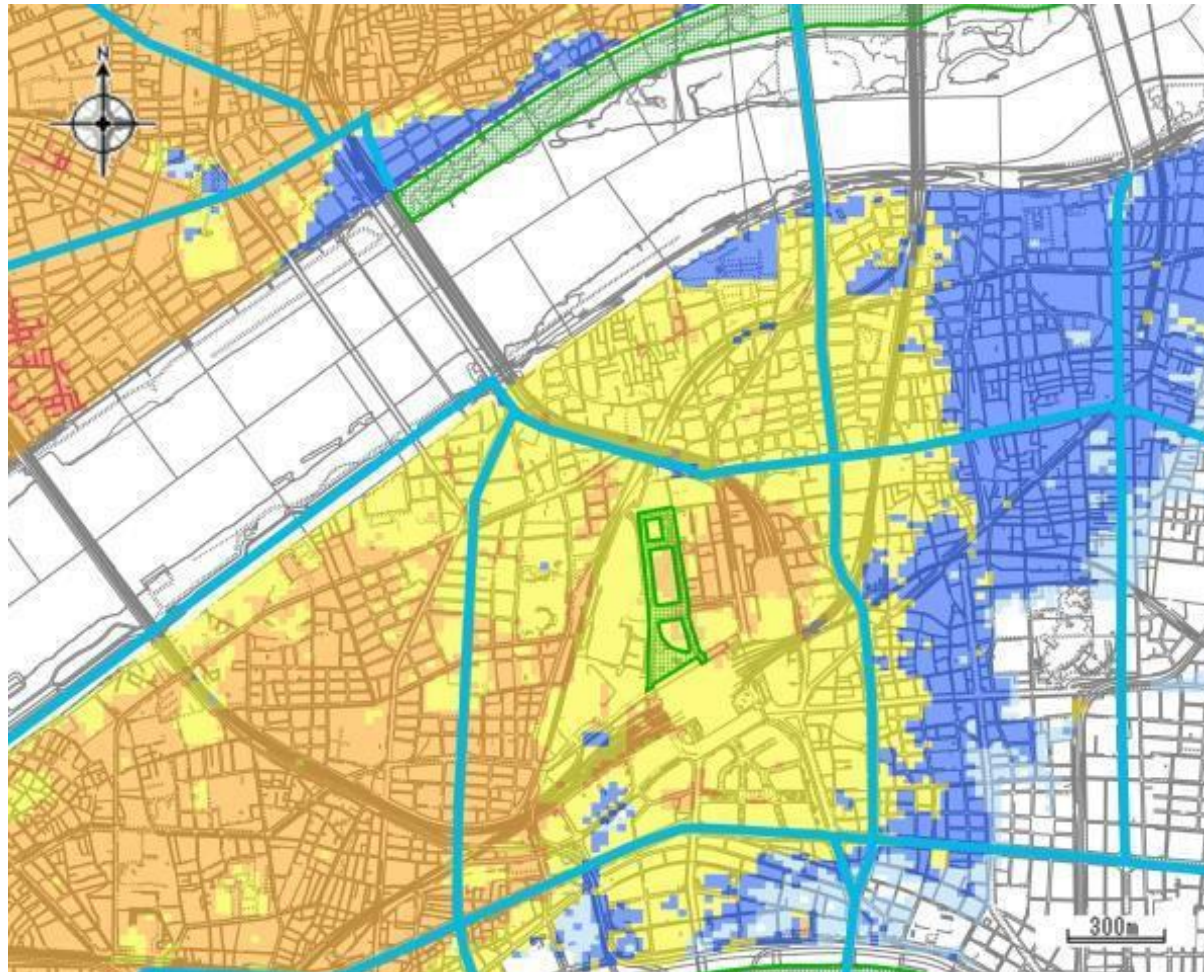
うめきた2期・梅田周辺の災害予測 ～淀川が氾濫した場合の浸水の深さ～



淀川氾濫時の浸水の深さ

- ・ 薄黄色の部分：
0.5m未満
 - ・ 赤い色の部分：
おおよそ0.5m～最大
10.0m
- 図の左上部に位置する淀川沿岸部付近は家屋倒壊等氾濫想定区域

うめきた2期・梅田周辺の災害予測 ～淀川が氾濫した場合の浸水継続時間～



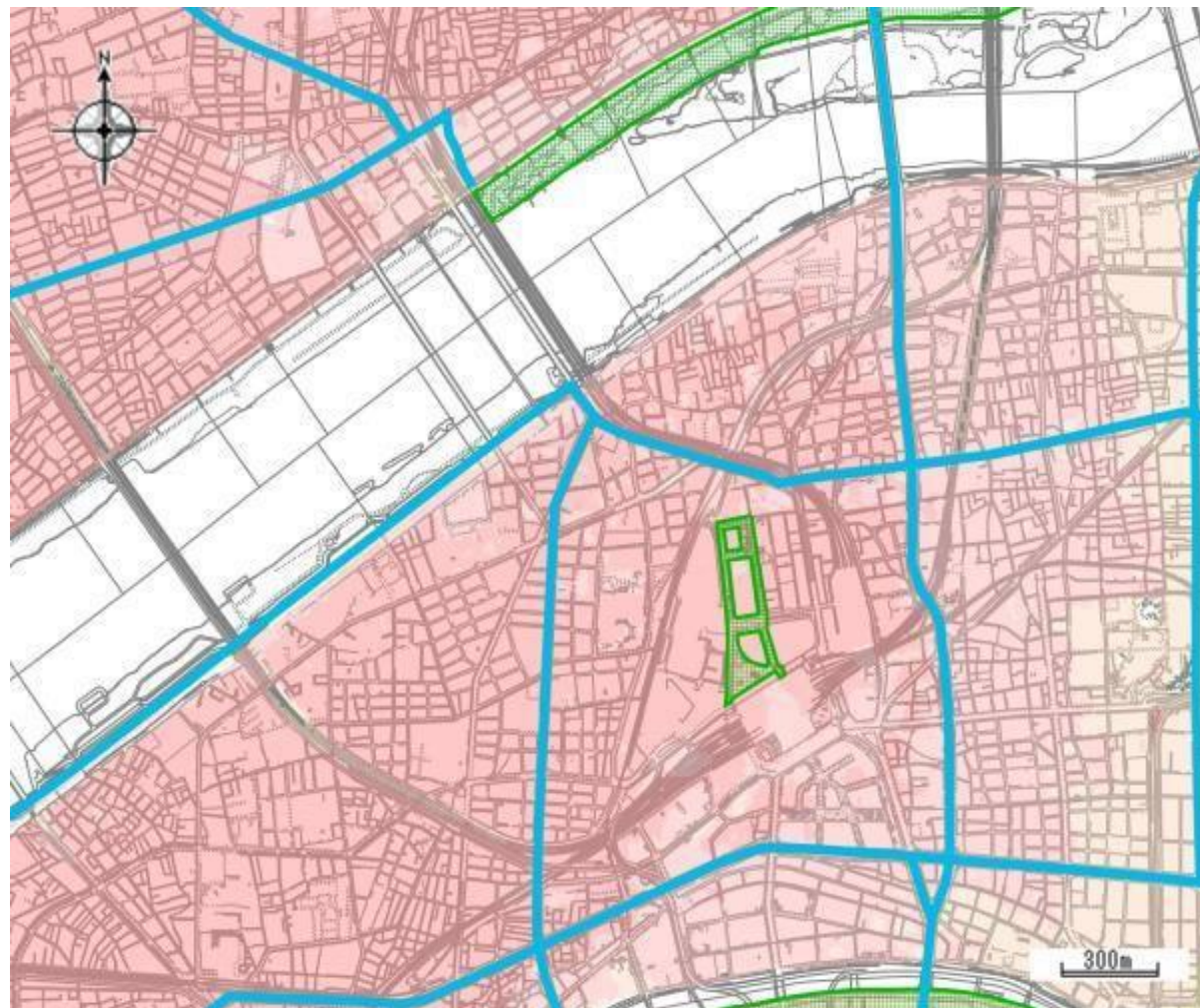
淀川氾濫時の親水継続時間

- ・ 青色の地域：
12時間から1日未満
- ・ 黄色の地域：
1日～3日未満
- ・ 橙色の地域：
3日～1週間未満

出典：マップナビおおさかより作成,
<https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity/Portal>

うめきた2期・梅田周辺の災害予測 ～高潮氾濫が発生した場合の浸水の深さ～

高潮氾濫時の浸水の深さ



- ・ 大阪市北区全域：
薄赤色
- ・ 薄赤色：
3.0m～5.0m

うめきた2期・梅田周辺の災害予測 ～高潮氾濫が発生した場合の浸水継続時間～

高潮氾濫時の浸水継続時間

- ・ 青色：12時間～1日未満
- ・ 赤色：1週間～2週間程度



出典：マップナビおおさかより作成,
<https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity/Portal>

うめきた2期・梅田周辺の災害予測 ～南海トラフ巨大地震による津波が来襲した場合の浸水の深さ～

津波来週時の浸水の深さ

- ・ 薄黄色：
浸水0.5m未満
- ・ 薄い赤い色：
おおよそ0.5m～最大3.0m



氾濫などによるハザードが引き起こす被害傾向

- 淀川などにおいて、氾濫などによる堤防決壊が発生した場合、堤防決壊地点より、標高の低い方向へ、洪水氾濫などが起こり、広範囲に、家屋などにおける床下浸水や全壊・半壊のリスクが発生する
- 加えて、浸水時間が長期に及ぶことで、その間の都市機能・防災機能上の重要な施設などの浸水被害によって、ライフラインが途絶し、交通機能の断絶や長期間における経済的損失なども発生する恐れがある

課題①

淀川氾濫【警戒レベル4】の場合の大阪市の避難行動の呼びかけ

- ◆「緊急放送、緊急放送、警戒レベル4、全員避難」×2回
- ◆こちらは大阪市です
- ◆淀川が氾濫するおそれのある水位に到達し、警戒レベル4となりました
- ◆すみやかに全員避難を開始してください
- ◆指定された避難場所への避難が危険な場合は、近くの安全な場所か、屋内の高いところに避難してください

提案①

うめきた2期を含む大阪市北区は、外国人観光客も多く、大阪市の避難行動の呼びかけ（日本語）を理解できない可能性がある



呼びかけの多言語化



より多くの人々が避難行動に移ることができる

課題②

従業員に対しての避難訓練は実施されているが、一般のお客様を避難誘導する訓練は実施されていない



実際に災害が起きた時に、従業員は避難できても、一般のお客様はスムーズに避難行動を取ることができない

※ 特に外国人観光客は慣れない土地であること、日本語によるコミュニケーションが困難であることが予想されるため、スムーズな避難行動を取りづらい

提案②

従業員等が一般のお客様や多言語で避難誘導する力を身につける訓練を実施する



災害が起きた時に従業員が率先して避難誘導をとれるようになる



- 率先して行動し、誘導してくれる従業員がいると、災害が起きた際に、一般のお客様も安心して指示に従い、避難行動を取ることができる
- 多言語を取り入れた避難誘導訓練の実施
 - 外国人観光客に対しても避難誘導ができるように

参考文献

- ・ 大阪市：うめきた（大阪駅北地区）プロジェクト，
<https://www.city.osaka.lg.jp/osakatokei/page/0000005308.html>（2023-10-01）
- ・ 大阪市北区：大阪北区ジシン本，<https://jishinbook.net/>（2024-01-16）
- ・ 大阪府：副首都ビジョン【改定版】～若者・女性のチャレンジにあふれ、ワクワクする副首都・大阪～，
<https://www.pref.osaka.lg.jp/renkeichosei/fukusyutosuishin/visionkaiteiban.html>
（2023-09-25）
- ・ 大阪府：マップナビおおさか，<https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity/Portal>（2024-01-16）
- ・ グランフロント大阪：グランフロント大阪災害対策訓練（負傷者・帰宅困難者対応），
https://www.nttud.co.jp/news/pdf/news_170112_01.pdf（2024-01-16）
- ・ 国土交通省都市局水管理・国土保全局 住宅局：水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン，令和3年5月，<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001406357.pdf>（2024-01-16）
- ・ 内閣府：南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告），
https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku_wg/pdf/20120829_higai.pdf（2024-01-16）
- ・ UR都市機構：調査時提供資料（2023-09-29）
- ・ UR都市機構：うめきた2期地区，<https://www.ur-net.go.jp/produce/case/umekita/2nd/project2/approach.html>（2024-01-16）

ご清聴ありがとうございました